

新生地開発と自社ブランド商品を構築し、小売への参入を目指す

(株)小林縫製工業 (栃木県栃木市)

女性用インナーを主体に企画、製造、販売。大手のOEMのほか自社商品開発・販売にも取り組む。

1. 相談のきっかけ

- ・新しい生地を開発したいが、自社の人材では限界があるので外部に協力を仰ぎたい。
- ・栃木信用金庫本店と連携して実施した相談会に参加した。

2. 課題整理・分析

- ・生地開発の機能を中心にヒアリングを行ったところ、以下の機能を持った生地が必要。
 - ①内側は吸湿・吸水性が高く、外側は放湿性・速乾性が高い
 - ②昇華転写プリント対応可能
- ・繊維に関する専門性が必要であることから、開発をサポートできる技術者もしくは研究機関を探ることが必要。
- ・また、開発の目途が立った際には、販売方法の検討やブランドづくりを進めることも必要。

3. 解決策の提案

- ・栃木県産業振興センターの専門家に、大手繊維メーカー出身で繊維企業の技術指導を行っている西村正昭氏が登録されていた。同氏は繊維素材の技術や性能評価、繊維素材・衣料関連のマーケティングを専門としており、事業者を紹介することとした。
- ・これまでにないオリジナリティのある商品や販売方法を取り入れることを提案。



4. 成果

- ・西村氏は生地開発の特性や課題を掴み、同氏のネットワークがある西日本の紡績商社へ相談をしたところ、事業者の要求をほぼ満たす性能の生地があることがわかり、数カ月悩んでいた生地開発の課題が一気に解決に向け動き出した。
- ・提供された生地を用いて商品サンプルを作成し、現在、平成28年春の販売開始に向け販売方法の検討や生地の機能検査、商品デザインの作成に取り組んでいる。
- ・新商品の開発に一定の目途が立ったことから、販売方法の具体的な検討にも入っており、顧客自身が数あるデザインの中から好きなものを選びオリジナル商品を作ることができるシステムで、タブレット等のモバイル機器を使ったオンライン注文販売を採用することとなった。対象となる顧客が滞在しやすい小売店舗を代理店とし、このタブレットを設置する予定である。
- ・よろず支援拠点を通じた専門家を活用し、上記販売システムの開発に加えブランド構築も進めており、新商品販売への準備が着々と進んでいる。